

研究ノート

昭和女子大学社会人メンタープログラム 参加学生の感想の質的分析

小森 亜紀子
木間 英 子

Content Analysis in Descriptions of Student Participants
in the Showa Women's University Mentor Network Program

Akiko Komori

Eiko Konoma

1. はじめに

昭和女子大学では2011年度より体系的なキャリア教育を実施している¹。その一環として2011年4月から社会人メンター制度を開始した。昭和女子大学の社会人メンター制度とは、在学生在が、社会人メンター（以下メンターと略す）として登録された多様な職歴を持つ幅広い年代の女性から、対面で様々な助言を受ける仕組みである。メンターは、2011年度から1年に2回大学ホームページで募集している。2013年9月現在328人のメンターが登録している²。昭和女子大学出身者は13.7%で、登録者の87.3%にあたる283人が、他校出身者である。大学の先輩後輩の枠を超えて、これから社会に出ようとする若い女性のキャリア形成を支援したいという社会人女性人が、本学のプログラムに関心を示し、応募してくれていることがわかる。

メンター制度のプログラムは、表1の3種類である。

表1 メンター制度の3つのプログラム

プログラム	内容	実施	想定対象学生像
個別メンタリング	学生が大学ホームページの学生専用ポータルサイトから、キーワード検索してメンターを選び、面談。	随時 45分	卒業後の志望分野が明確な学生
メンターカフェ	テーマを設定して(例：外国語を使う仕事について聞いてみる！)、3人のメンターと10～30人の学生が懇談する。	月1回(土曜日) 13：30-15：00	興味のある分野はある程度明確な学生
メンターフェア	お昼休みの時間帯、学内オープンスペースのテーブルにメンター10～12人が一人ずつ待機し、学生は自由にメンターと懇談する。	月2回(平日) 11：45-13：15	社会人の話を聞いてみたい学生

1 昭和女子大学「昭和女子大学のキャリアサポートシステム」p.1。

2 メンターとして登録しているのは332人であるが、プロフィール公開をしているのは328人である。プロフィール非公開の理由は産休、転居等である。プロフィール公開とは、学生ポータルサイトに学生がメンターを検索できるように、匿名でプロフィール公開していることを指す。

「メンター」は、古代ギリシアの叙事詩『オデュッセウス』の中で、戦いに赴くオデュッセウスが、息子テレマコスの養育者、助言者の任を託した人物メントルに遡るとされる（渡辺、平田2006）。この名に由来する助言サポート活動「メンタリング」は、1904年にアメリカ合衆国ニューヨーク市に設立された私的青少年支援組織Big Brothers Big Sistersによって行われたのが初めとされている³。当初は地域の非行少年少女の更生を目的として行われていたが、1980年代以降、高等教育にも取り入れられ、マイノリティや女性、その他援助が必要とされる学生の支援方法として大きく広がる（渡辺2003）。他方、産業界においても、1970年代からの雇用環境の変化に伴い、中高年層のキャリア構築を支援する方途として注目されるようになる（渡辺・平田2006）。

メンタリングの定義はまだ定まっておらず、一般的な意味に留まるが、「社会経験のある年長者（メンター）が若年者（メンティ⁴）と一対一で継続的定期的、もしくは期間限定的に交流し、キャリア形成の支援をする」という含意は諸説に共通していると考えてよい。本学のメンター制度が、既成のメンタリングシステムと異なる特徴は、以下の点である。①メンティがメンターを選ぶことができること、②メンターとメンターティは継続的な関係をもたない⁵こと、③1対1の個別メンタリング以外に、同時に複数のメンターと複数のメンティとが交流できるプログラムが用意されていること、の3点である。

本稿では、上記③の複数のメンターとメンティとの交流プログラムのうち、メンターフェアを取り上げ、参加した学生の感想文を質的に分析し、本学のメンター制度の効果の一部を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法と視点

分析の対象は、昭和女子大学2年次学生必修のキャリアコア科目履修者⁶が提出した任意レポートのうちの、メンターフェア参加学生の感想文727枚である。それらをKJ法の手法に倣い分析した。原則として1枚の感想文から2要素を抽出することとし、1402の切片をコンテキスト（文脈）により分類した。個別メンタリング、メンターカフェではなく、メンターフェアを分析対象としたのは、参加学生数が他の2プログラムいずれに対しても5倍を超え、母数が多いこと、複数メンターと複数メンティとの多様な組み合わせがあること、すべての学科の学生が参加しており、全学的な傾向を捉えることができると考えたからである。倫理的配慮として、学生ポータルサイトで全学生に、研究にあたっての感想文の使用を告知し、個人が特定できないように留意した。

3 Big Brothers Big Sisters, *100 Years of History, Starting something since 1904*.

4 メンタリングの受け手

5 学生は年間20回個別メンタリングをすることは可能であるが、同一メンターとの面談とは3回までに制限されている。

6 キャリアコア科目では、メンタープログラムへの参加レポート（任意提出）が成績平常点評価対象に含まれている。

メンターフェア参加学生感想文の質的分析に入る前に、次項では、メンターフェアを含む各プログラムへの学生参加状況を概観しておきたい。

3. 社会人メンタープログラムへの学生参加状況

2011年度のメンター制度開始から、2013年度前期までの各プログラムへの学生の参加状況は、表2の通りである。プログラムごとに開始した年度が異なるが、2年半の間に2,123人の学生が参加している。

表2 プログラムごとの学生参加人数（延べ）

（単位：人）

	2011年度 前期	2011年度 後期	2012年度 前期	2012年度 後期	2013年度 前期	合計
個別メンタリング	—	47	95	92	40	274
メンターカフェ	10	76	89	42	67	284
メンターフェア	—	—	551	514	500	1,565
合計	10	123	735	648	607	2,123

図1は、各プログラムへの参加学生を学年別に分類したものである。個別メンタリング、メンターカフェは、卒業後のライフコースを具体的に考え始める3年生の参加が多いが、メンターフェアは圧倒的に2年生が多い。その理由は、メンタープログラムの参加が2年生必修キャリアコア科目の評価の対象となっており、中でも、メンターフェアはもっとも気軽に参加しやすいからではないかと推測される。

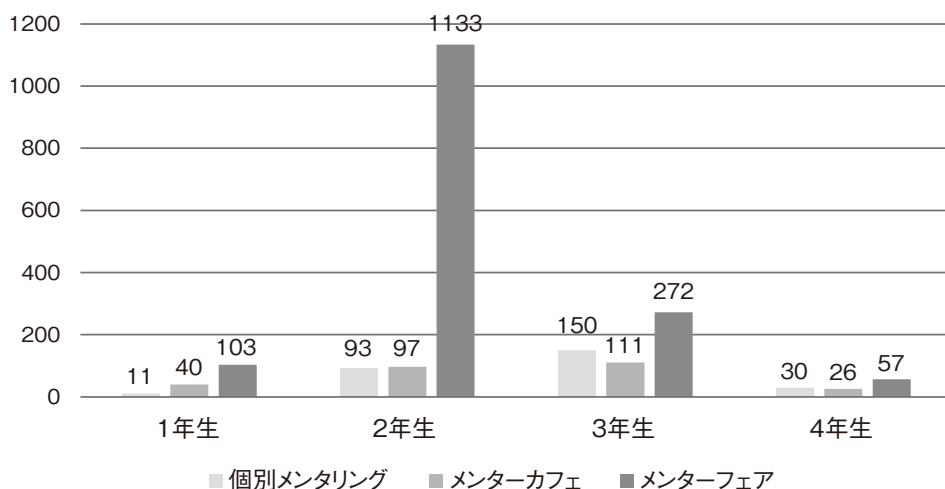


図1 プログラムごとの学年別参加学生数（単位：人）

4. メンターフェアに参加した学生の感想文の分析

前述したように1,402の切片を分析した結果、表3に示したように11のコンテキスト群に分類した。「情報・方法」について学んだ群が、合計938件で全体の66.9%を占める。

「気づき」群は410件で29.2%、「被支援」群が3.9%であったが、「被支援」は、他群のコメントの中にも重複して多く見られた（図2参照）。

表3 メンターフェア参加学生感想文から抽出したコンテキストの分類群⁷

	n	コンテキスト群	カテゴリー
1	342	今やるべきことがわかった	情報・方法
2	239	仕事について聞いた	情報・方法
3	154	社会人との会話経験が大事だとわかった	気づき
4	145	就職活動について聞いた	情報・方法
5	122	人生において大事なことを学んだ	気づき
6	108	ライフスタイルについて聞いた	情報・方法
7	104	働くことについて聞いた	情報・方法
8	84	ロールモデルに出会えた	気づき
9	54	エンパワメントしてもらった	被支援
10	40	自分を知った	気づき
11	10	他の学生の意見聞いた	気づき
	1402	n 合計	

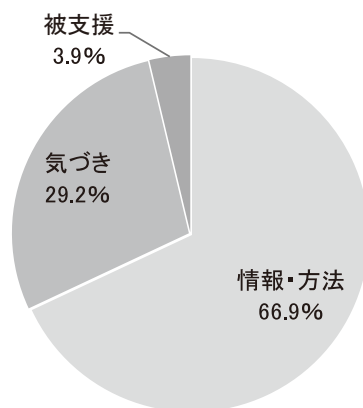


図2 コンテキストのカテゴリーの割合

コンテキスト群をX軸（具体的→抽象的）、Y軸（現在→未来）とし、4象限で見ると図3のようになる。未来への示唆を得たとする記述（A=336とB=192）は、528で全体の37.6%で、現在から近未来への示唆を得たとする記述（C=691とD=176）は867で61.8%であった。具体的な示唆を得たとする記述（A=336とC=691）は1,027で73.3%、抽象的示唆を得たとする記述（B=192とD=176）は368で26.2%である。学生はメンターから幅広い助言を受けているが、現在から近未来の具体的な示唆を多く受けている。

7 11のコンテキスト群それぞれの下位要素は資料の表4～14を参照のこと。

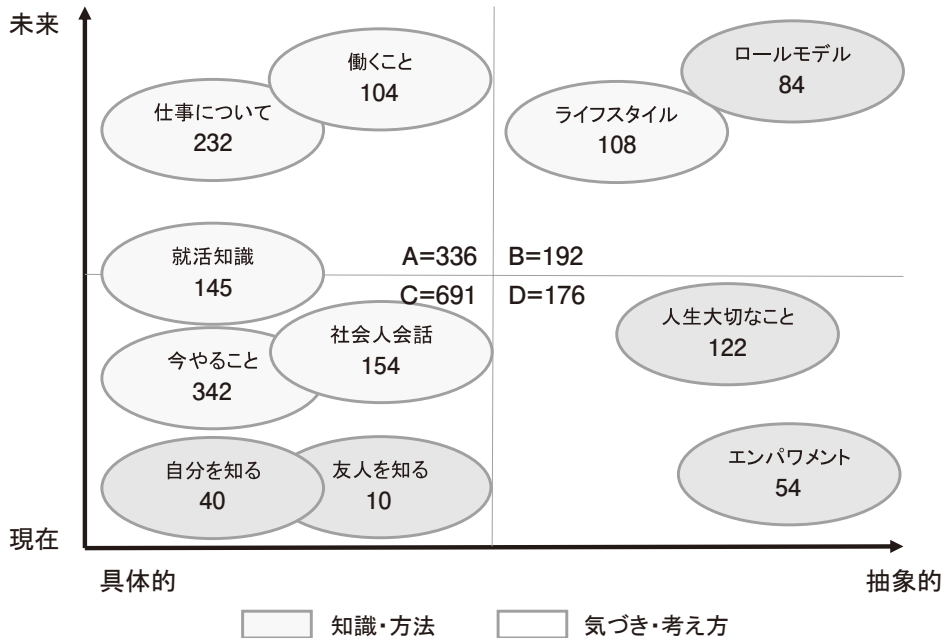


図3 コンテキスト群の分布

5. おわりに

メンターが語るのは、一般論でもなく教科書のような手本でもなく、まぎれもなく個人的な体験によって獲得した確信であり知識である。体験に基づいた話はすべてが具体的であり、学生は、そのことに傾聴する価値を見出すのだろう。メンターの話に真剣に聞き入る姿がそれを表している。メンターの体験を通して、学生は多様で複雑な生き方や働き方を想像することができる。自らの将来像を、漠然とではなく具体的に描く機会をもてる学生は少ない。メンターが自分に替わって体現してくれる未来が現在を照射し、あらためて自己を意識する。今自分には何が足りなくて何が必要か、何をすべきかを自覚的に考えるのである。このことは、進む方向が見つかって初めて認識できることなのであるが、メンターフェアは、その方向を絞り込むだけでなく、選択肢を広げる契機としても有効である。複数メンターとの会話を通して多様なライフコースを知ることができると同時に、他学生の発言を聞くことによって、同年代からも自分とは異なる考え方に刺激を受け、将来のヴィジョンを広げることができる。

最後に、今後の課題について記したい。一つは、個別メンタリング・メンターカフェ参加学生の感想の質的分析である。二つには、質的分析をした学生の追跡となる定量調査の実施である。本稿の分析対象の学生の感想に書かれていることは、メンターフェアに参加したことによって自覚された心理的な変化であって、具体的に行動した記述ではない。メンターからエンパワメントされたことは確かであるが、この経験をきっかけとして、どのような行動を起こしているのかは不明である。経年の追跡調査が必要である。三つ目は、

メンターへのインタビュー調査・定量調査の実施である。学生がエンパワメントされると同時に、メンターにも何らかの変化があるのではないかと予測からである。活動しているメンターからは、「私たちこそ学生から力をもらった」という感想を聞くことが多い。メンターからメンティへの一方的な支援ではなく、相互の作用があるのではないか。メンターにとって学生との交流がどのような体験であり、自らのキャリア形成にどのような影響をもたらしているのかを明らかにしていきたい。これは異世代間の女性の相互支援を考えるきっかけにもなると考える。

<参考文献>

- Big Brothers Big Sisters, 100 Years of History, http://www.bbbs.org/site/c.9iILl3NGKhK6F/b.5962351/k.42EB/We_are_here_to_start_something.htm.2013.9.17.
- クラム, キャシー、渡辺直登・伊藤知子訳 (2003)『メンタリングー会社の中の発達支援関係』白桃書房。
- 小森亜紀子 (2013)「<資料>昭和女子大学社会人メンターネットワークの活動と学生参加状況」『昭和女子大学女性文化研究所紀要』第40号、pp.27-40.
- 中川恵里子 (2002)「米国の青少年個別支援型メンタリングプログラムの展開と方法—子供と大人と地域を繋ぐ成人・生涯発達論の「動的システム」的パラダイムの転換—」『生涯学習・社会教育学研究』第27号、pp.81-91。
- 昭和女子大学キャリアデザイン委員会 (2012)「昭和女子大学のキャリアサポートシステム」。
- 渡辺かよ子 (2009)『メンタリング・プログラム—地域・企業・学校の連携による次世代育成』川島書店。
- 渡辺三枝子 (2003)「<研究ノート>米国高等教育におけるメンタリング・プログラムの研究成果と異議」『教育学研究』第70巻第2号、pp.79-87。
- 渡辺三枝子 (2005)「高等教育におけるメンタリング・プログラムの構造的特徴と類型」『愛知淑徳大学現代社会学部論集』第10号、pp.83-94。
- 渡辺三枝子 (2009)「女性のキャリア形成支援のあり方—『ロールモデルに関する調査研究』の結果から」『国立女性教育会館研究ジャーナル』vol.13, pp.16-26.
- 渡辺三枝子、平田史昭 (2006)『メンタリング入門』日経文庫。

(こもり あきこ 現代ビジネス研究所助教 女性文化研究所所員)

(このま えいこ 初等教育学科教授 女性文化研究所所員)

<資料>

表4 「今やるべきことがわかった」

342	今やるべきことがわかった
76	未来に向かって行動する
48	学生時代に経験積んで充実させたい
28	人との出会い、コミュニケーション大切にしたい
25	日常生活の送り方を学んだ
25	語学の勉強を頑張ろうと思った
24	勉強しようと思った
20	今すべきことがわかった
18	課外活動も頑張ろうと思った
17	留学・海外生活について聞き、やるべきこと見えた
13	取れる資格は取っておきたい
10	就職活動の準備始める
9	多くのことに興味を持ってチャレンジしたい
9	本や新聞を読んで情報を得たい
7	実習の不安解消された
5	教養を身につけたい
2	教員採用試験の勉強をする
1	キャリア科目あってよかった
1	ゼミ選択の参考になった
1	大学で学ぶことができていることに感謝
1	アドバイスを実行していく

表5 「仕事について聞けた」

239	仕事について聞けた
107	具体的な仕事について聞けた
26	資格を活かした仕事について知った
18	就きたい仕事の内容がわかった
14	これまで知らなかった仕事について知った
13	仕事に必要なこと大事なことがわかった
12	心理学はいろいろなことに関わる
11	専門分野と違う仕事につけるとわかった
10	正社員・派遣社員について
9	仕事についての視野広がった、考え変わった
8	仕事選びのポイントがわかった
7	仕事の内容・イメージがわかった
3	大学で学んでいること仕事に活かしたい
1	思い描いていた仕事と違って驚いた

表 6 「社会人との会話経験が大事だと分かった」

154	社会人との会話経験が大事だとわかった
28	現場の人の具体的な話聞けて良かった
26	年上の人と話す機会楽しく貴重だった
21	もっとメンター制度利用する
19	メンターと近くで話できて楽しく新鮮だった
15	年上の働いている人話聞く機会無く貴重だった
13	聞きたいことたくさん質問できた
9	相談に乗ってもらえてアドバイスいただけた
7	初めて参加したが貴重な話聞けて良かった
5	悩み聞いてもらえ、楽になった
5	生活すべての面について話聞けて参考になった
3	メンター制度素晴らしい
2	加点のためにいったが参加して良かった
1	仕事に対する誇り伝わってきた

表 7 「就職活動について聞けた」

145	就職活動について聞けた
42	就活への不安がなくなり前向きになった
37	業界・企業・職種研究大切とわかった
18	試験・面接のノウハウ教えてもらった
15	公務員試験・教員採用試験について聞けた
10	選択の幅広がり、判断材料増えた
5	就活の基本的なことがわかった
5	就活のたいへんさ改めてわかった
5	企業が大学生に求める人材わかった
3	資格、スキルアップ以外にも大事なことを学んだ
3	グローバルな視点からのアドバイスもらった
2	留学生だが日本で就職する気持ちになった

表8 「人生において大事なことを学んだ」

122	人生において大事なことを学んだ
28	人と関わることの大切さ、方法学んだ
20	広い視野・ポジティブな考え方大切
20	社会人としての行動方法学んだ
14	自分の好きなこと持ち、自分で考えること大切
11	実践的生活方法を
11	経験は財産になると知った
10	人生は努力によって変わると知った
1	やり始めるのに遅いことはない知った
1	「考える力」「ゴール」「逆算」に納得した
1	人生の選択は環境によって変わると知った
3	人生は楽しむことが大切と知った
1	わからないことは恥ずかしいことではない
1	やりたいこと諦めない人生が大切

表9 「ライフスタイルについて聞いた」

108	ライフスタイルについて聞いた
19	子育てについて様々なことを聞いた
18	結婚について学んだ
14	しっかりした人生計画立てること大切と知った
13	ワークライフバランスが大事だとわかった
11	仕事・育児には家族の理解・協力必要と知った
10	仕事と育児の両立について考えた
9	人生における対処の仕方学んだ
7	周囲の支援が大切だとわかった
4	母親が元気だと家庭も良くなると知った
2	趣味を持つことも大切と知った
1	大人と子供の相互関係の重要性学んだ

表10 「働くことについて聞けた」

104	働くことについて聞けた
18	好きなことやりたいことを仕事にしたいと思った
13	仕事のやりがい・楽しさ見出すこと学んだ
11	働くこと・働き方教えてもらった
10	転職は悪いことではないと知った
10	正社員・派遣社員について聞けた
7	職場の人間関係の大切さ知った
7	社会人になるのに必要なこと学んだ
6	長く働きたいので働ける会社に入りたい
5	もっと男女の差がなくなればいい
5	誇りを持って人のために働きたい
5	就職後も学び続けること大事と知った
4	巡り合った仕事大切にして続けること学んだ
3	セクハラ対処法学んだ

表11 「ロールモデルに出会えた」

84	ロールモデルに出会えた
16	メンターはいきいき仕事を楽しんでいるかっこいい
12	こういう人になりたい
11	家庭も仕事も充実して憧れる
10	メンターみたいに行動力持ちたい
8	メンターはビジョン・向上心あって素敵
8	メンターはいきいき・キラキラしていて素敵
8	メンターは立ち居振る舞い・話し方素敵
2	女性としての理想像に会えた
2	子供連れの活動素敵
1	海外生活楽しそうだった
1	普通の大学生だったメンターに親近感
1	人の幸せが自分の幸せと聞いて幸せになった
1	企画している起業の内容に感心
1	同じ指導者としての話聞けた
1	子供を持っても働くメンター刺激的
1	自分の夢の成功例知り心が躍った

表12 「エンパワメントしてもらった」

54	エンパワメントしてもらった
12	ポジティブに考えられるようになった
9	不安が解消して安心した
7	勇気・自信をもらった
4	アドバイスもらって嬉しかった
4	褒めてくださり、嬉しかった
4	焦らなくてよいのだとわかった
4	視野・未来が広がった
3	背中を押してもらった
3	励ましてもらって嬉しかった
2	励みになった
1	気づいていないことがわかった
1	褒められたこと思い出してと言われた

表13 「自分を知った」

40	自分を知った
11	自分を知ることも大切と知った
8	自分のやりたいことを見つけたい
6	自分の考えがまとまった
4	自分を充実させることも大切と知った
4	自分の欠点がわかった
2	新しい自分、新しい考えが生まれた
2	自分の可能性を知った
2	自分を肯定してみようと思った
1	向き不向きをもう一度考えたい

表14 「他の学生の意見聞いた」

10	他の学生の意見聞いた
5	他学科他学年の学生の話聞いた
4	就活生の話聞いた
1	友達の話聞いた良かった